

音楽がここにある

「家族をテーマにした」子どものうた「大募集」。集まった90組の作品は、宮川彬良さんとアンサンブル・ベガのメンバーに「参りました！」と言わせた。会場口ビーには応募作の「うた」が流され、壁のボードには全応募作に宮川彬良さんが寄せたコメントが張り出された。写真。子どもたちは夢中で自分の曲名を探したり、記念写真を撮ったり…。熱いムードで演奏会は始まった。

宮川彬良とアンサンブル・ベガ 「きみはてんさい! あしたのうた」 結果発表&初演レポート



変身した「うた」に子どもたち興奮

結 果発表のステージでは、アンサンブル・ベガの演奏と岡崎裕美さんの歌で8組の曲を演奏。作曲者には宮川氏が起こした譜面（スコア）が贈られた。

この企画は、アンサンブル・ベガが2005年に受賞した兵庫県芸術文化協会坂井時忠音楽賞の副賞金を活用したもの。リーダーでコントラバス担当の新真二さんは「もらった賞金を兵庫県の子どもたちに返す方法」をメンバーで探した

という。「普通の子どもがヒーローになれることをと話し合って、子どもの鼻歌というダイヤの原石を拾い出し、磨いてあげたらということになりました。作品を聴いて改めて子どもの能力、人間の能力の高さに考えさせられました」

兄弟の合作など大傑作が続々と

最 初に演奏された「ごめんね」とい



宮川彬良とアンサンブル・ベガ★1998年、大阪フィルの首席奏者や各地のオーケストラのコンサートマスターらが集まって結成。表情豊かな演奏は「8人なのにオーケストラの音がする」と評される。音楽監督・宮川彬良さんのユーモアあふれるトークの台本は響敏也さんが手がける。8月8日(水) 11:30/15:30、兵庫県立芸術文化センター大ホールでの「夏休みスペシャル」公演も完売の人気



う曲を作った宝塚市の山下太一くん(8)は、自ら歌い、弟の一起くん(5)が踊ってビデオで応募。3年ほど前、お母さんに怒られた時に歌った曲だ。

疲れたころ、山下家の名曲が完成。宮川さんから「歌でなければ表せない微妙な気持ち! 大傑作」と評された。幼稚園からピアノを習っている尼崎市の佐藤州くん(11)、由芽ちゃん(8)兄妹は、テレビに出ている大好きな「アキラさん」に「会いたくて」応募した。

由芽ちゃんは自転車で空を見たときに思いついた「さあ!!」という歌を、州くんは「いこう!!」という歌を作り、「ふたりとも音楽の道を歩むでしょう」というコメントを宮川さんにもらった。

州くんは楽譜に興味があり、自作の曲を書きためた音楽集はすでに数冊になる。由芽ちゃんは「ずっと」そっとなど韻を踏んだ言葉を集めて歌にリズムをつけていった。佐藤兄妹はもらった譜面がうれしくて、家に飾っているという。

音楽の感動と共に「命」を伝えたい

日 頃の「遊び」や何げない動きをそのまま鼻歌にする子どもたちは、まさに「てんさい」。

宮川さんが言う「耳人間」だろう。コンサートの間もぐく自然に手拍子したり、立

って踊り出したり…。ノリすぎて疲れたのか、アンコールの途中で、寝てしまう幼児もいた。3世代勢ぞろいと思われる家族連れも目立ち、ベガ・ホール全員が音楽で一つになり、共鳴する新鮮な感動を味わった。

「これからも、人が見なことも聞いたこともない演奏会で、たくさんの人を楽ませたい」と話す新さん。「子どもたちの前で賣の高い演奏をして、音楽家ってすごい、人間ってすごいと感じてほしい。そうすれば、そんなことができる人間の命の大切さにも気づいてもらえるんじゃないかな」と期待を寄せている。